

# 沖縄県における 「しまくとぅば」の表記について



令和4年3月

沖縄県文化観光スポーツ部

沖縄県における「しまくとうば」の表記について  
～ 目次 ～

## I 総論

1	はじめに	1
2	県の「しまくとうば」表記の基本的考え方	2
3	県の「しまくとうば」表記方法 しまくとうば表記一覧「解説」	3

## II 地域表記

1	国頭語	仮名表記一覧表	5
2	沖縄語	仮名表記一覧表	8
3	宮古語	仮名表記一覧表	10
4	八重山語	仮名表記一覧表	12
5	与那国語	仮名表記一覧表	14

## III 参考表記

1	参考第1表	16
2	参考第2表	20

## IV 参考資料

1	用語集	23
2	しまくとうば正書法検討委員会設置要綱	26
3	しまくとうば正書法検討委員会委員名簿	27

# 沖縄県における「しまくとぅば」の表記について

しまくとぅば正書法検討委員会  
令和4年3月30日決定

## I 総論

### 1 はじめに

#### (1) 「しまくとぅば」表記の現状

県内各地域において受け継がれてきた「しまくとぅば」は、地域の伝統行事で使用される大切な言葉であるとともに、組踊や琉球舞踊、沖縄芝居、島唄等といった沖縄文化の基層であり、いわば沖縄県民のアイデンティティの拠り所でもある。

しかし、平成21年には、ユネスコ（国連教育科学文化機関）が国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語のそれぞれを消滅の危機に瀕する言語に指定している。

「しまくとぅば」には、現代の日本語にはない音があることなどの理由から、現在、「しまくとぅば」の文字や文章を書き表すとき、国際音声字母、カタカナ、ひらがな、漢字仮名混じり、独自の文字など、様々な表記が使用されている。

また、「しまくとぅば」には、現代の日本語には無い音素（子音と母音）があることなどの理由から、研究者等により、いくつかの表記の方法が提唱されているが、「しまくとぅば」の表記は統一されていない。

「しまくとぅば」の普及、推進に取り組む沖縄県においても、「しまくとぅば」に関する文字資料は、しまくとぅば読本、各地域の会話集等があるが、その表記は統一されていない。

#### (2) 「しまくとぅば」表記の必要性

仮名文字による「しまくとぅば」の表記は、「しまくとぅば」の文章を書くために必要なものであり、標準的な仮名文字表記の確立は、「しまくとぅば」の普及・継承の効果を高めるものである。

また、各地の「しまくとぅば」を仮名文字によって示すことができれば、地域によって異なる「しまくとぅば」の多様性と意義を理解し、地域ごとの「しまくとぅば」の普及・継承に資するものであると考えられる。

一方、標準的な仮名文字表記の確立は、これまで多くの人々が工夫してきた表記が否定され、「しまくとぅば」の普及への意欲がそがれる可能性もあることから、全県的な表記の統一については、今後も引き続き丁寧かつ慎重に検討していく必要がある。

しかしながら、沖縄県が作成した「しまくとぅば」に関する文字資料の間で表記が異なる場合、その文字資料を利用する者が混乱してしまう可能性があることから、沖縄県による「しまくとぅば」の普及・継承の取組み等を行ううえでは、統一的な仮名文字表記を策定する必要がある。

その場合、県内の「しまくとぅば」の地域性を考慮し、国頭、沖縄、宮古、八重山、与那国の5地域それぞれの表記を検討する必要がある。

### (3) 県の「しまくとうば」表記の検討状況

「しまくとうば」は、地域の伝統行事、組踊、琉球舞踊、島唄等の沖縄文化の基層となるものであり、「しまくとうば」が失われると、沖縄文化の衰退に繋がるものと危惧される。

そのため、沖縄県では、平成 18 年に「しまくとうばの日に関する条例」を制定するとともに、平成 25 年度に「しまくとうば」普及推進計画を策定し、同計画に基づく普及推進など、「しまくとうば」の普及・継承に取り組んできた。

そのような中、「しまくとうば」の多様性を理解し、「しまくとうば」普及・継承の取り組みの効果を高めることを目的に、平成 30 年度に学識経験者等で構成する「しまくとうば正書法検討委員会」を立ち上げ、沖縄県としての「しまくとうば」正書法の検討を行い、「しまくとうば」の仮名文字表記を取りまとめた。

以下にその考え方を示す。

## 2 県の「しまくとうば」表記の基本的考え方

- (1) 沖縄県による「しまくとうば」の普及・継承の取り組み等における「しまくとうば」の仮名文字表記として示すものであり、これまで各地域や研究者等において使用されてきた表記を否定するものではない。
- (2) 「しまくとうば」の普及が目的であることから、児童生徒を含む多くの県民にもわかりやすいものとする。
- (3) 「しまくとうば」の仮名文字表記は、現代日本語の表記に用いられているカタカナに準拠し、それでは書き表せないものについては、カタカナ表記の文字構成の原則を適用して新たな表記を創出する。

※現代日本語のカタカナ表記に準拠する理由

- ・カタカナは例外的な表記が多い平仮名に比べ表音性に優れていること。
- ・日本語には無い外国語の発音を転写した外来語の表記で見慣れていること。
- ・現代日本語のカタカナ表記を「しまくとうば」の表記にそのまま使用できること。
- ・児童生徒の学習負担が軽減されること。

※ただし、平仮名や漢字仮名交じり等による表記を否定するものではない。

- (4) 琉球諸語全体の音を可能な限り重複がないよう書き分けるものとする。

上記の基本的考え方に基づき、次ページ以降に、その詳細を示す「解説」及び「しまくとうば」の表記の一覧表をまとめた。

なお、「しまくとうば」の表記については、公表後の使用状況や環境の変化にあわせ、必要に応じて見直しを行うものとする。

### 3 県の「しまくとぅば」表記の方法（しまくとぅば表記一覧「解説」）

#### (1) 「しまくとぅば」表記一覧について

①沖縄県による「しまくとぅば」の普及・継承の取組み等における「しまくとぅば」の仮名文字表記は、原則として「地域表記」によるものとする。

②「地域表記」は、ユネスコの区分に基づいて、国頭、沖縄、宮古、八重山、与那国の5つの地域ごとの表記一覧表で構成する。

ア 当該5つの地域の「しまくとぅば」は、相互に大きく異なっていることから、5地域それぞれの表記一覧表を作成した。

イ 「地域表記」は、それぞれの地域内のすべての集落の「しまくとぅば」を書き分けられるように作成した。

③参考表記として、「参考第1表」及び「参考第2表」を付する。

参考表記は、地域表記を作成するための基礎資料として、次のとおり整理を行い、参考第1表と参考第2表を参考に地域表記を作成した。

ア 参考第1表は、沖縄県内のすべての集落の「しまくとぅば」を書き分けられるように作成した表である。

イ 参考第2表は、参考第1表には反映されていない先行研究などで示されている表記、および、地域の人たちが慣用的に使用してきた表記から採用した表である。

#### (2) 「地域表記」について

「地域表記」は、以下の4つの基本方針に基づいて作成した。

##### ①表音性

ア 表音性とは、「しまくとぅば」の音節と仮名文字表記との間に一対一の対応関係があることであり、表記は表音性のあることを第一の基本方針とする。

イ 表音性の高い音節文字であるカタカナを利用する（例1）。「地域表記」は現代日本語のカタカナ表記に準拠するが、日本語にはない母音や子音を含む音声を表すなど、場合に応じて特別な表記を認めることとする（例2）。

《例1》

沖 縄 語：×チョウデイ ○チャーデー（兄弟）

※長音は棒引き記号「ー」を使用する。

《例2》

国 頭 語：<sup>?</sup>ラー、ツラー[<sup>?</sup>ra:]（お前）〈伊江島〉

沖 縄 語：<sup>?</sup>ワー、ツワー[<sup>?</sup>wa:]（豚）、'ウトゥ、ウウトゥ[utu]（夫）

宮 古 語：スps<sup>°</sup>ゥ[zzu]（魚）

八重山語：ミズエ<sup>°</sup>ー[midzε:]（水は）

与那国語：サカイ[sajai]（ガジュマル）、<sup>?</sup>トゥイ[<sup>?</sup>tui]（一人）

ウ 現代日本語にない音節についてはカタカナや記号を組み合わせで表記する。

エ 仮名文字と実際の音声との間の一対一の対応関係を保証し、当該仮名文字がどのような音声を表記しているかを示すために、カタカナと国際音声記号を併記す

る。そのことによって仮名文字の学習と地域独特の発音を結び付けて理解することにも繋がる。

オ 現代日本語と同じ発音の場合は「日本語の表記」に準ずる。なお、ここでいう「日本語の表記」とは、「現代仮名遣い」の「本文第1（原則に基づくきまり）」の表記、または「外来語の表記」の「第1表、第2表」の表記に限定し、「現代仮名遣い」の「本文第2（表記の慣習による特例）」は採用しない。

#### ②簡潔性

ア 簡潔性とは、簡単で分かりやすいことであり、「2 「しまくとぅば」表記の基本的考え方」の(2)における「児童生徒を含む多くの県民にわかりやすい」簡潔性を二つ目の基本方針とする。

イ 「地域表記」は表形式にして整理する。

ウ 1つの音に「添え字」1文字、「補助記号」1つを原則とする。

エ 既存の小添字、補助記号（濁点、半濁点）の使用では表記できない音節を書き表すために新たに用いる補助記号は、それを用いた表記がどんな発音なのか容易に理解できるものとする。

オ 記号は、パソコンやスマートフォン等での入力の簡潔性を考慮し、キーボードのJIS配列および、フリック入力で簡易に使用できる文字を優先する。

#### ③体系性

ア 表形式にすることで、地域ごとの発音の特徴を示しつつ、日本語の50音図が示すような仮名文字表記の体系性を学ぶことが可能になるようにする。

イ しまくとぅばの発音の体系性の理解と学習を容易にするため、日本語の50音図の「行」（カ行、サ行、ナ行等）は同じ子音（k, s, n 等）を共通に持つ仮名を並べ、「段」（ア段、イ段、ウ段等）は同じ母音（a, i, u 等）を共通に持つ仮名文字を並べている。「地域表記」の表も50音図と同原理で並べ、体系的な表形式にする。

#### ④親近性

ア 各地域でも、「しまくとぅば」を記録するために、独自の仮名文字を設定し、ある程度、地域に馴染んできているものについても考慮する。

《例》宮古地域には、いわゆる「宮古仮名」と呼ばれる地域独自の表記があり、その半濁点「°」の使い方などを採用する。例えば宮古大神島では、トウイ°（鳥）[tuɾ][tɯi][tɯi]のように「イ°」という表記が使われている。

イ 視覚的な読みやすさに加え、親しみやすいカナ文字を小書きで添えることにより、発音をイメージしやすくし、小学生や初学者でも敷居が低く手軽に用いることができる。例えば、沖縄語では、イイン（縁）、アアー（感動詞）、宮古語では、プス、クス、クッのように表記される。

## II 地域表記

- 1 国頭語 仮名表記一覧表
- 2 沖縄語 仮名表記一覧表
- 3 宮古語 仮名表記一覧表
- 4 八重山語 仮名表記一覧表
- 5 与那国語 仮名表記一覧表

国頭語 仮名表記一覧表

ア [ <sup>?</sup> a] [a]	イ [ <sup>?</sup> i] [i]	ウ [ <sup>?</sup> u] [u]	エ [ <sup>?</sup> e] [e]	オ [ <sup>?</sup> o] [o]						
'ア アア 'a [a]	'イ イイ 'i [i][ji]	'ウ ウウ 'u[u][wu]	'エ エエ 'e [e]	'オ オオ 'o [o]						
カ [ka]	キ [ki]	ク [ku]	ケ [ke]	コ [ko]	キャ [kja]	キュ [kju]	キョ [kjo]	クワ [kwa]	クイ [kwi]	クエ [kwe]
<sup>?</sup> カ ツカ [ <sup>?</sup> ka]	<sup>?</sup> キ ツキ [ <sup>?</sup> ki]	<sup>?</sup> ク ツク [ <sup>?</sup> ku]	<sup>?</sup> ケ ツケ [ <sup>?</sup> ke]	<sup>?</sup> コ ツコ [ <sup>?</sup> ko]				<sup>?</sup> クワ ツクワ [ <sup>?</sup> kwa]	<sup>?</sup> クイ ツクイ [ <sup>?</sup> kwi]	<sup>?</sup> クエ ツクエ [ <sup>?</sup> kwe]
ガ [ga]	ギ [gi]	グ [gu]	ゲ [ge]	ゴ [go]	ギャ [gja]	ギユ [gju]	ギョ [gjo]	グワ [gwa]	グイ [gwi]	グエ [gwe]
サ [sa]	スイ [si]	ス [su]	セ [se]	ソ [so]						
シャ [ʃa]	シ [ʃi]	シュ [ʃu]	シェ [ʃe]	ショ [ʃo]						
サ° [θa]	スイ° [θi]	ス° [θu]	セ° [θe]	ソ° [θo]						
ザ [dza]	ズイ [dzi]	ズ [dzu]	ゼ [dze]	ゾ [dzo]						
ジャ [dʒa]	ジ [dʒi]	ジュ [dʒu]	ジェ [dʒe]	ジョ [dʒo]						
タ [ta]	テイ [ti]	トゥ [tu]	テ [te]	ト [to]						
<sup>?</sup> タ ツタ [ <sup>?</sup> ta]	<sup>?</sup> テイ ツテイ [ <sup>?</sup> ti]	<sup>?</sup> トゥ ツトゥ [ <sup>?</sup> tu]	<sup>?</sup> テ ツテ [ <sup>?</sup> te]	<sup>?</sup> ト ツト [ <sup>?</sup> to]	<sup>?</sup> テヤ ツテヤ [ <sup>?</sup> tja]	<sup>?</sup> テユ ツテユ [ <sup>?</sup> tju]	<sup>?</sup> テヨ ツテヨ [ <sup>?</sup> tjo]			
ダ [da]	デイ [di]	ドゥ [du]	デ [de]	ド [do]	デヤ [dja]	デュ [dju]	デョ [djo]			
ツア [tsa]	ツイ [tsi]	ツ [tsu]	ツエ [tse]	ツオ [tso]						



ツァ ツツァ [ <sup>?</sup> tʂa]	ツイ ツツイ [ <sup>?</sup> tʂi]	ツ ツツ [ <sup>?</sup> tʂu]	ツェ ツツェ [ <sup>?</sup> tʂe]	ツォ ツツォ [ <sup>?</sup> tʂo]						
チャ [tʃa]	チ [tʃi]	チュ [tʃu]	チェ [tʃe]	チョ [tʃo]						
ツチャ [ <sup>?</sup> tʃa]	ツチ [ <sup>?</sup> tʃi]	ツチュ [ <sup>?</sup> tʃu]	ツチェ [ <sup>?</sup> tʃe]	ツチョ [ <sup>?</sup> tʃo]						
ナ [na]	ニ [ni]	ヌ [nu]	ネ [ne]	ノ [no]	ニャ [ɲa]	ニュ [ɲu]	ニョ [ɲo]			
ツナ [ <sup>?</sup> na]	ツニ [ <sup>?</sup> ni]	ツヌ [ <sup>?</sup> nu]	ツネ [ <sup>?</sup> ne]	ツノ [ <sup>?</sup> no]	ツニャ [ <sup>?</sup> ɲa]	ツニュ [ <sup>?</sup> ɲu]	ツニョ [ <sup>?</sup> ɲo]			
ハ [ha]		フウ [hu]	ヘ [he]	ホ [ho]						
ヒャ [ça]	ヒ [çi]	ヒュ [çu]		ヒョ [ço]						
ファ [ɸa]	フィ [ɸi]	フ [ɸu]	フェ [ɸe]	フォ [ɸo]						
パ [pa]	ピ [pi]	プ [pu]	ペ [pe]	ポ [po]	ピャ [pja]	ピュ [pju]	ピョ [pjo]			
ツパ [ <sup>?</sup> pa]	ツピ [ <sup>?</sup> pi]	ツプ [ <sup>?</sup> pu]	ツペ [ <sup>?</sup> pe]	ツポ [ <sup>?</sup> po]	ツピャ [ <sup>?</sup> pja]	ツピュ [ <sup>?</sup> pju]	ツピョ [ <sup>?</sup> pjo]			
バ [ba]	ビ [bi]	ブ [bu]	ベ [be]	ボ [bo]	ビャ [bja]	ビュ [bju]	ビョ [bjo]			
マ [ma]	ミ [mi]	ム [mu]	メ [me]	モ [mo]	ミャ [mja]	ミュ [mju]	ミョ [mjo]			
ツマ [ <sup>?</sup> ma]	ツミ [ <sup>?</sup> mi]	ツム [ <sup>?</sup> mu]	ツメ [ <sup>?</sup> me]	ツモ [ <sup>?</sup> mo]	ツミャ [ <sup>?</sup> mja]	ツミュ [ <sup>?</sup> mju]	ツミョ [ <sup>?</sup> mjo]			
ヤ [ja]		ユ [ju]	イエ [je]	ヨ [jo]						
ツヤ [ <sup>?</sup> ja]		ツユ [ <sup>?</sup> ju]	ツイエ [ <sup>?</sup> je]	ツヨ [ <sup>?</sup> jo]						

ラ [ra]	リ [ri]	ル [ru]	レ [re]	ロ [ro]	リャ [rja]	リュ [rju]	リョ [rjo]			
?ラ ツラ [ʔra]	?リ ツリ [ʔri]									
ワ [wa]	ウイ [wi]		ウエ [we]	ウオ [wo]						
?ワ ツワ [ʔwa]	?ウイ ツウイ [ʔwi]		?ウエ ツウエ [ʔwe]							

(長音) ー

(促音) ッ

(撥音) 【語頭】 'ン, ン 'n, 'm, 'ɲ, 'ŋ, 'N [n-,m-,ɲ-,ŋ-,N] (緩やかな声立て)

?ン, ツン [ʔn,ʔm,ʔɲ,ʔŋ,ʔN] (声門閉鎖音)

【語中・語末】 ン [-n,-m,-ɲ,-ŋ,-N]

ア行で始まる単語には「声門閉鎖音」と「緩やかな声立て」の区別があるが、「声門閉鎖音」で始まる語の方が多いため、「緩やかな声立て」の表記に記号を添え、「声門閉鎖音」で始まるア行の単語については何も記号を添えずに表記することで両者を書き分ける。

例. ウトゥ[ʔutu] (音) 'ウトゥ, ウトゥ[utu] (夫)

沖縄語 仮名表記一覧表

ア [ʔa] [a]	イ [ʔi] [i]	ウ [ʔu] [u]	エ [ʔe] [e]	オ [ʔo] [o]						
’ア アア ’a [a]	’イ イイ ’i [ji][i]	’ウ ウウ ’u[u][wu]	’エ エエ ’e [e]	’オ オオ ’o [o]						
カ [ka]	キ [ki]	ク [ku]	ケ [ke]	コ [ko]	キャ [kja]	キュ [kju]	キョ [kjo]	クワ [kwa]	クイ [kwi]	クエ [kwe]
ガ [ga]	ギ [gi]	グ [gu]	ゲ [ge]	ゴ [go]	ギャ [gja]	ギユ [gju]	ギョ [gjo]	グワ [gwa]	グイ [gwi]	グエ [gwe]
サ [sa]	スイ [si]	ス [su]	セ [se]	ソ [so]						
シャ [ʃa]	シ [ʃi]	シュ [ʃu]	シェ [ʃe]	ショ [ʃo]						
ザ [dza]	ズイ [dzi]	ズ [dzu]	ゼ [dze]	ゾ [dzo]						
ジャ [dʒa]	ジ [dʒi]	ジュ [dʒu]	ジェ [dʒe]	ジョ [dʒo]						
タ [ta]	テイ [ti]	トゥ [tu]	テ [te]	ト [to]						
ダ [da]	デイ [di]	ドゥ [du]	デ [de]	ド [do]						
ツア [tʃa]	ツイ [tʃi]	ツ [tʃu]	ツエ [tʃe]	ツオ [tʃo]						
チャ [tʃa]	チ [tʃi]	チュ [tʃu]	チェ [tʃe]	チョ [tʃo]						
ナ [na]	ニ [ni]	ヌ [nu]	ネ [ne]	ノ [no]						
ニャ [ɲa]		ニュ [ɲu]	ニエ [ɲe]	ニョ [ɲo]						
ハ [ha]			ヘ [he]	ホ [ho]						
ヒャ [ça]	ヒ [çi]	ヒュ [çu]		ヒョ [ço]						

ファ [ɸa]	フィ [ɸi]	フ [ɸu]	フェ [ɸe]	フォ [ɸo]						
パ [pa]	ピ [pi]	プ [pu]	ペ [pe]	ポ [po]	ピャ [pja]	ピュ [pju]	ピョ [pjo]			
バ [ba]	ビ [bi]	ブ [bu]	ベ [be]	ボ [bo]	ビャ [bja]	ビュ [bju]	ビョ [bjo]			
マ [ma]	ミ [mi]	ム [mu]	メ [me]	モ [mo]	ミャ [mja]	ミュ [mju]	ミョ [mjo]			
ヤ [ja]		ユ [ju]	イエ [je]	ヨ [jo]						
?ヤ ツヤ [ʔja]		?ユ ツユ [ʔju]	?イエ ツイエ [ʔje]	?ヨ ツヨ [ʔjo]						
ラ [ra]	リ [ri]	ル [ru]	レ [re]	ロ [ro]	リャ [rja]	リュ [rju]	リョ [rjo]			
ワ [wa]	ウイ [wi]		ウエ [we]	ウオ [wo]						
?ワ ツワ [ʔwa]	?ウイ ツウイ [ʔwi]		?ウエ ツウエ [ʔwe]							

(長音) ー

(促音) ッ

(撥音) 【語頭】 'ン, ゝン 'n, 'm, 'ŋ, 'ŋ, 'N [n-,m-,ŋ-,ŋ-,N] (緩やかな声立て)

?ン, ツン [ʔn,ʔm,ʔŋ,ʔŋ,ʔN] (声門閉鎖音)

【語中・語末】 ン [-n,-m, -ŋ, -ŋ,-N]

ア行で始まる単語には「声門閉鎖音」と「緩やかな声立て」の区別があるが、「声門閉鎖音」で始まる語の方が多いため、「緩やかな声立て」の表記に記号を添え、「声門閉鎖音」で始まるア行の単語については何も記号を添えずに表記することで両者を書き分ける。

例. ウトゥ[ʔutu] (音) 'ウトゥ, ウトゥ[wutu] (夫)

### 補助記号

無声化 ン。[n̥] など

鼻母音 イ̃ [ĩ] ウ̃ [ũ] など

喉頭化音 ?パ、ツパ[ʔpa] ?タ、ツタ[ʔta] ?メ、ツメ[ʔme]など

鼻音化 ヒ̃ [hĩ] など

宮古語 仮名表記一覧表

ア [ʔa] [a]	イ [ʔi] [i]	ウ [ʔu] [u]	エ [ʔe] [e]	オ [ʔo] [o]	イ° [z] [zi] [ɿ] [i] [ī]				
カ [ka]	キ [ki]	ク [ku] [kɔ]	ケ [ke]	コ [ko]	クス [ks] [kʰsi] [kɿ] [ki]	キャ [kja]	キュ [kju]	キョ [kjo]	クワ [kwa]
ガ [ga]	ギ [gi]	グ [gu] [gɔ]	ゲ [ge]	ゴ [go]	グズ [gz] [gʰzi] [gi]	ギャ [gja]	ギユ [gju]	ギョ [gjo]	グワ [gwa]
サ [sa]		スウ [su]	セ [se]	ソ [so]	ス [s] [sɿ] [sī] [si]				
シャ [ʃa]	シ [ʃi]	シュ [ʃu]	シェ [ʃe]	シヨ [ʃo]					
ザ [dza]		ズウ [dzu]	ゼ [dze]	ゾ [dzo]	ズ [dz] [dzɿ] [dzī] [dzi]				
ジャ [dʒa]	ジ [dʒi]	ジュ [dʒu]	ジェ [dʒe]	ジヨ [dʒo]					
サ° [za]		ス°ウ [zu]	セ° [ze]	ソ° [zo]	ス° [z] [zɿ] [zī] [zi]				
シ°ャ [ʒa]	シ° [ʒi]	シ°ユ [ʒu]		シ°ヨ [ʒo]					
タ [ta]	テイ [ti]	トゥ [tu]	テ [te]	ト [to]		テャ [tja]	テユ [tju]	テョ [tjo]	
ダ [da]	デイ [di]	ドゥ [du]	デ [de]	ド [do]		デャ [dja]	デユ [dju]	デョ [djo]	
ツア [tsa]		ツウ [tsu]		ツオ [tso]	ツ [ts] [tsɿ] [tsī] [tsi]				
チャ [tʃa]	チ [tʃi]	チュ [tʃu]	チェ [tʃe]	チヨ [tʃo]					
ナ [na]	ニ [ni]	ヌ [nu]	ネ [ne]	ノ [no]		ニャ [nja]	ニユ [nju]	ニョ [no]	

ファ [fa]	フィ [fi]	フウ [fu]	フェ [fe]	フォ [fo]		ファ [fja]	フュ [fju]	フョ [fjo]	
ハ [ha]	ヒ [hi]	ホウ [hu]							
パ [pa]	ピ [pi]	プ [pu]	ペ [pe]	ポ [po]	プス [ps][pʰi] [pɿ][pi]	ピヤ [pja]	ピユ [pju]	ピョ [pjo]	
バ [ba]	ビ [bi]	ブ [bu]	ベ [be]	ボ [bo]	ブズ [bz][bʰi] [bɿ][bi]	ビヤ [bja]	ビユ [bju]	ビョ [bjo]	
ヴァ [va]	ヴィ [vi]	ヴウ [vu]	ヴェ [ve]	ヴォ [vo]		ヴァ [vja]	ヴユ [vju]		
マ [ma]	ミ [mi]	ム [mu]	メ [me]	モ [mo]	ムズ [mz][mʰi] [mɿ][mi]	ミヤ [mja]	ミュ [mju]	ミョ [mjo]	
ヤ [ja]		ユ [ju]		ヨ [jo]					
ラ [ra]	リ [ri]	ル [ru]	レ [re]	ロ [ro]		リヤ [rja]	リュ [rju]	リョ [rjo]	
ワ [wa] [va]									
(長音) ー (促音) ッ (撥音) ン [n,m,ŋ,N]									
音節主音の子音〔大神島、伊良部島〕					子音単独				
クッ	ムル	プル	ブル		ン	フ	ヴ	ム°	リ°,ル°
[kf]	[ml]	[pl]	[bl]		[n]	[f]	[v]	[m]	[l]
前舌半広母音〔大神島〕									
ケエ	ペエ								
[kɛ]	[pɛ]								
無声化〔池間島、宮古島市西原、伊良部佐良浜〕									
ン。									
[n。m。]									

八重山語 仮名表記一覧表

ア [ <sup>h</sup> a] [a]	イ [ <sup>h</sup> i] [i]	ウ [ <sup>h</sup> u] [u]	エ [ <sup>h</sup> e] [e]	オ [ <sup>h</sup> o] [o]	イ° [ɾ] [i] [i]	エ° [ɛ] [è]				
カ [ka]	キ [ki]	ク [ku]	ケ [ke]	コ [ko]	キイ [kɾ] [ki] [ki]	ケエ [kɛ] [kè]	キャ [kja]	キュ [kju]	キョ [kjo]	クワ [kwa]
ガ [ga]	ギ [gi]	グ [gu]	ゲ [ge]	ゴ [go]	ギイ [gɾ] [gi] [gi]	ゲエ [gɛ] [gè]	ギャ [gja]	ギユ [gju]	ギョ [gjo]	グワ [gwa]
サ [sa]		ス [su]	セ [se]	ソ [so]	シイ [sɾ] [si] [si]	スエ° [sɛ] [sè]				スア [swa]
シャ [ʃa]	シ [ʃi]	シュ [ʃu]		シヨ [ʃo]						シユア [ʃwa]
ザ [dza]		ズ [dzu]	ゼ [dze]	ゾ [dzo]	ジイ [dzɾ] [dzi] [dzi]	ズエ° [dzɛ] [dzè]				
ジャ [dʒa]	ジ [dʒi]	ジュ [dʒu]		ジョ [dʒo]						ジュア [dʒwa]
タ [ta]	テイ [ti]	トゥ [tu]	テ [te]	ト [to]			テヤ [tja]	テユ [tju]	テョ [tjo]	トア [twa]
ダ [da]	デイ [di]	ドゥ [du]	デ [de]	ド [do]			デヤ [dja]	デュ [dju]	デョ [djo]	ドア [dwa]
ツア [tsa]		ツ [tsu]	ツエ [tse]	ツオ [tso]	チイ [tsɾ] [tsi] [tsi]	ツエ° [tsɛ] [tsè]				
チャ [tʃa]	チ [tʃi]	チュ [tʃu]	チェ [tʃe]	チヨ [tʃo]						
ナ [na]	ニ [ni]	ヌ [nu]	ネ [ne]	ノ [no]	ニイ [nɾ] [ni][ni]	ネエ [nɛ][nè]	ニヤ [nja]	ニユ [nju]	ニョ [njo]	ヌア [nwa]
ハ [ha]			ヘ [he]	ホ [ho]						
ヒヤ [ça]	ヒ [çi]	ヒユ [çu]		ヒヨ [ço]						
ファ [ɸa] [fa]	フィ [ɸi] [fi]	フ [ɸu] [fu]	フェ [ɸe] [fe]	フォ [ɸo] [fo]						

パ [pa]	ピ [pi]	プ [pu]	ペ [pe]	ポ [po]	ピイ [pɪ][pī] [pi]	ペエ [pɛ][pĕ]	ピャ [pja]	ピュ [pju]	ピョ [pjo]	
バ [ba]	ビ [bi]	ブ [bu]	ベ [be]	ボ [bo]	ビイ [bɪ][bī] [bi]	ベエ [bɛ][bĕ]	ビャ [bja]	ビュ [bju]	ビョ [bjo]	ブア [bwa]
ヴァ [va]	ヴィ [vi]	ヴ [vu]	ヴェ [ve]	ヴォ [vo]						
マ [ma]	ミ [mi]	ム [mu]	メ [me]	モ [mo]	ミイ [mɪ][mī] [mi]	メエ [mɛ] [mĕ]	ミャ [mja]	ミュ [mju]	ミョ [mjo]	ムア [mwa]
ヤ [ja]		ユ [ju]	イエ [je]	ヨ [jo]						
ラ [ra]	リ [ri]	ル [ru]	レ [re]	ロ [ro]	リイ [rɪ][rī] [ri]	レエ [rɛ][rĕ]	リャ [rja]	リュ [rju]	リョ [rjo]	
ワ [wa]	ウィ [wi]		ウェ [we]	ウォ [wo]						
(長音) ー (促音) ッ (撥音) ン[m,n,ɲ,ŋ,N]										
子音単独〔黒島、新城下地〕 ル° [r]										

### 補助記号

無声化 〔波照間島、石垣島白保〕 カ。 キ。 ク。 キイ。 サ。 シ。 ス。 タ。 テイ。 トウ。 チ。 ツ。 チイ。 [ka.] [ki.] [ku.] [kɪ.][kī.] [sa.] [ʃi.] [su.] [ta.] [ti.] [tu.] [tʃi.] [tsu.] [tsɪ.] ナ。 ニ。 ニイ。 パ。 ピ。 ピイ。 マ。 ミ。 ミイ。 ラ。 リ。 [na.] [ni.] [nɪ.][nī.] [pa.] [pi.] [pɪ.][pī.] [ma.] [mi.] [mɪ.][mī.] [ra.] [ri.] リイ。 ン。 [rɪ.] [rī.] [n. m.]
〔竹富島〕 ヒ。 フ。 [çi.] [ɸu.]
鼻母音〔竹富島〕 ア̃ イ̃ ウ̃ エ̃ オ̃ [ã] [ĩ] [ũ] [ĕ] [õ]
鼻音化 ン̃ [ñ, ɲ̃]
広母音〔竹富島〕 アア 【参考】 ア [a] [ə]



与那国語 仮名表記一覧表

ア [ <sup>?</sup> a] [a]	イ [ <sup>?</sup> i] [i]	ウ [ <sup>?</sup> u] [u]	エ [ <sup>?</sup> e] [e]	オ [ <sup>?</sup> o] [o]				
カ [ka]	キ [ki]	ク [ku]	ケ [ke]	コ [ko]	キャ [kja]	キュ [kju]	キョ [kjo]	クワ [kwa]
<sup>?</sup> カ ツカ [ <sup>?</sup> ka]	<sup>?</sup> キ ツキ [ <sup>?</sup> ki]	<sup>?</sup> ク ツク [ <sup>?</sup> ku]	<sup>?</sup> ケ ツケ [ <sup>?</sup> ke]	<sup>?</sup> コ ツコ [ <sup>?</sup> ko]	<sup>?</sup> キャ ツキャ [ <sup>?</sup> kja]	<sup>?</sup> キュ ツキュ [ <sup>?</sup> kju]	<sup>?</sup> キョ ツキョ [ <sup>?</sup> kjo]	<sup>?</sup> クワ ツクワ [ <sup>?</sup> kwa]
ガ [ga]	ギ [gi]	グ [gu]	ゲ [ge]	ゴ [go]	ギャ [gja]	ギユ [gju]	ギョ [gjo]	グワ [gwa]
カ° [ŋa]	キ° [ŋi]	ク° [ŋu]	ケ° [ŋe]	コ° [ŋo]	キ°ヤ [ŋja]	キ°ユ [ŋju]	キ°ョ [ŋjo]	ク°ワ [ŋwa]
サ [sa]		ス [su]	セ [se]	ソ [so]				スア [swa]
シャ [ʃa]	シ [ʃi]	シュ [ʃu]		ショ [ʃo]				
ザ [dza]		ズ [dzu]	ゼ [dze]	ゾ [dzo]				ズア [dzwa]
ジャ [dʒa]	ジ [dʒi]	ジュ [dʒu]		ジョ [dʒo]				
タ [ta]	テイ [ti]	トゥ [tu]	テ [te]	ト [to]	テヤ [tja]	テユ [tju]	テョ [tjo]	トア [twa]
<sup>?</sup> タ ツタ [ <sup>?</sup> ta]	<sup>?</sup> テイ ツテイ [ <sup>?</sup> ti]	<sup>?</sup> トゥ ツトゥ [ <sup>?</sup> tu]	<sup>?</sup> テ ツテ [ <sup>?</sup> te]	<sup>?</sup> ト ツト [ <sup>?</sup> to]	<sup>?</sup> テヤ ツテヤ [ <sup>?</sup> tja]	<sup>?</sup> テユ ツテユ [ <sup>?</sup> tju]	<sup>?</sup> テョ ツテョ [ <sup>?</sup> tjo]	<sup>?</sup> トア ツトア [ <sup>?</sup> twa]
ダ [da]	デイ [di]	ドゥ [du]	デ [de]	ド [do]	デヤ [dja]	デュ [dju]	デョ [djo]	ドア [dwa]
ツア [tsa]		ツ [tsu]	ツエ [tse]	ツオ [tso]				ツワ [tswa]
チャ [tʃa]	チ [tʃi]	チュ [tʃu]		チョ [tʃo]				

ナ [na]	ニ [ɲi]	ヌ [nu]	ネ [ne]	ノ [no]	ニャ [ɲa]	ニュ [ɲu]	ニョ [ɲo]	ヌア [nwa]
ハ [ha]			ヘ [he]	ホ [ho]				
ヒャ [ça]	ヒ [çi]	ヒュ [çu]		ヒョ [ço]				
ファ [ɸa]		フ [ɸu]						
ꞥパ ツパ [ꞥpa]	ꞥピ ツピ [ꞥpi]	ꞥプ ツプ [ꞥpu]	ꞥペ ツペ [ꞥpe]	ꞥポ ツポ [ꞥpo]	ꞥピャ ツピャ [ꞥpja]	ꞥピュ ツピュ [ꞥpju]	ꞥピョ ツピョ [ꞥpjo]	ꞥプア ツプア [ꞥpwa]
バ [ba]	ビ [bi]	ブ [bu]	ベ [be]	ボ [bo]	ビャ [bja]	ビュ [bju]	ビョ [bjo]	ブア [bwa]
マ [ma]	ミ [mi]	ム [mu]	メ [me]	モ [mo]	ミャ [mja]	ミュ [mju]	ミョ [mjo]	ムア [mwa]
ヤ [ja]		ユ [ju]		ヨ [jo]				
ラ [ra]	リ [ri]	ル [ru]	レ [re]	ロ [ro]	リャ [rja]	リュ [rju]	リョ [rjo]	ルア [rwa]
ワ [wa]								
(長音) ー (促音) ッ (撥音) ン [m,n,ɲ, ŋ,N]								

### **Ⅲ 参考表記**

**(参考第 1 表・参考第 2 表)**

## 参考第 1 表

まえがき

参考第 1 表は、すべての集落のしまくとぅばの音声を書き分けられるように工夫して作成したものである。

すべての地域で同じ発音になる場合は、同じカナ表記にし、異なる発音の場合は他のカナ表記と重ならないように添え字や補助記号を用いて書き分けることを目指して作成したものである。

地域で培われてきた慣用の表記をそのまま採用すると他地域と重なるものがあるため、文字や記号を工夫して組み合わせた結果、特殊な表記となっているものがある。それについては、表の後に「留意事項」として解説を加えたので適宜参照されたい。

参考第 1 表のあとに参考第 2 表も示した。参考第 2 表は地域で使われた表記を中心に集めたものである。参考第 1 表とともに参考第 2 表も地域表記を策定するための基盤となるものである。

詳しくは参考第 2 表を参照されたい。

ア [ʔa] [a]	イ [ʔi] [i]	ウ [ʔu] [u]	エ [ʔe] [e]	オ [ʔo] [o]	イ° [z] [z̥] [ɰ][i] [i̥]		エ° [ɛ] [ë]						
’ア アア ’a [a]	’イ イイ ’i [i] [ji]	’ウ ウウ ’u [u] [wu]	’エ エエ ’e [e]	’オ オオ ’o [o]									
カ [ka]	キ [ki]	ク [ku] [kɯ]	ケ [ke]	コ [ko]	キイ [kɰ] [ki] [ki̥]	クス [ks] [k̥s̥] [kɰ] [ki̥]	ケエ [kɛ] [k̥ë]	キャ [kja]	キュ [kju]	キヨ [kjo]	クワ [kwa]	クイ [kwi]	クエ [kwe]
ʔカ ツカ [ʔka]	ʔキ ツキ [ʔki]	ʔク ツク [ʔku]	ʔケ ツケ [ʔke]	ʔコ ツコ [ʔko]				ʔキャ ツキャ [ʔkja]	ʔキュ ツキュ [ʔkju]	ʔキヨ ツキヨ [ʔkjo]	ʔクワ ツクワ [ʔkwa]	ʔクイ ツクイ [ʔkwi]	ʔクエ ツクエ [ʔkwe]
ガ [ga]	ギ [gi]	グ [gu] [gɯ]	ゲ [ge]	ゴ [go]	ギイ [gɰ] [gi] [gi̥]	グス [gz] [g̥z̥] [gɰ] [gi̥]	ゲエ [gɛ] [g̥ë]	ギャ [gja]	ギュ [gju]	ギヨ [gjo]	グワ [gwa]	グイ [gwi]	グエ [gwe]
カ° [ŋa]	キ° [ŋi]	ク° [ŋu]	ケ° [ŋe]	コ° [ŋo]				キ°ヤ [ŋja]	キ°ユ [ŋju]	キ°ヨ [ŋjo]	ク°ワ [ŋwa]		
サ [sa]	スイ [si]	ス [su]	セ [se]	ソ [so]	シイ [sɰ] [si] [si̥]	ス [s] [sɰ] [si̥] [si]	スエ° [sɛ] [s̥ë]				スア [swa]		
シャ [ʃa]	シ [ʃi]	シュ [ʃu]	シェ [ʃe]	ショ [ʃo]							シユア [ʃwa]		

ザ [dza]	ズイ [dzi]	ズ [dzu]	ゼ [dze]	ゾ [dzo]	ジイ [dzɪ] [dzi] [dzi]	ズ [dz] [dzɪ] [dzi] [dzi]	ズエ° [dze] [dzë]				ズア [dzwa]		
ジャ [dʒa]	ジ [dʒi]	ジュ [dʒu]	ジェ [dʒe]	ジョ [dʒo]							ジュア [dʒwa]		
サ° [za]		ス° [zu]	セ° [ze]	ソ° [zo]		ス° [z] [zɪ] [zi] [zi]							
シ°ャ [ʒa]	シ° [ʒi]	シ°ュ [ʒu]		シ°ョ [ʒo]									
タ [ta]	テイ [ti]	トゥ [tu]	テ [te]	ト [to]				テャ [tja]	テュ [tju]	テョ [tjo]	トア [twa]		
?タ ツタ [ʔta]	?テイ ツテイ [ʔti]	?トゥ ツトゥ [ʔtu]	?テ ツテ [ʔte]	?ト ツト [ʔto]				?テャ ツテャ [ʔtja]	?テュ ツテュ [ʔtju]	?テョ ツテョ [ʔtjo]	?トア ツトア [ʔtwa]		
ダ [da]	デイ [di]	ドゥ [du]	デ [de]	ド [do]				デャ [dja]	デュ [dju]	デョ [djo]	ドア [dwa]		
ツア [tsa]	ツイ [tsi]	ツ [tsu]	ツエ [tse]	ツオ [tso]	チイ [tsɪ] [tsi] [tsi]	ツ [ts] [tsɪ] [tsi] [tsi]	ツエ° [tsɛ] [tsë]				ツワ [tswa]		
?ツア ツツア [ʔtsa]	?ツイ ツツイ [ʔtsi]	?ツ ツツ [ʔtsu]	?ツエ ツツエ [ʔtse]	?ツオ ツツオ [ʔtso]									
チャ [tʃa]	チ [tʃi]	チュ [tʃu]	チェ [tʃe]	チョ [tʃo]									
?チャ ツチャ [ʔtʃa]	?チ ツチ [ʔtʃi]	?チュ ツチュ [ʔtʃu]	?チェ ツチェ [ʔtʃe]	?チョ ツチョ [ʔtʃo]									
ナ [na]		ヌ [nu]	ネ [ne]	ノ [no]	ニイ [niɪ] [ni] [ni]		ネエ [neɛ] [në]				ヌア [nwa]		
ニャ [ɲa]	ニ [ɲi]	ニュ [ɲu]	ニエ [ɲe]	ニョ [ɲo]									

ナ ツナ [na]		ヌ ツヌ [nu]	ネ ツネ [ne]	ノ ツノ [no]									
ニヤ ツニヤ [ɲa]	ニ ツニ [ɲi]	ニユ ツニユ [ɲu]		ニヨ ツニヨ [ɲo]									
ハ [ha]		フウ [hu]	ヘ [he]	ホ [ho]									
ヒヤ [ça]	ヒ [çi] [hi]	ヒユ [çu]		ヒヨ [ço]									
ファ [ɸa]	フィ [ɸi]	フ [ɸu]	フェ [ɸe]	フォ [ɸo]									
ファ [fa]	フィ [fi]	フウ [fu]	フェ [fe]	フォ [fo]				フヤ [fja]	フユ [fju]	フヨ [fjo]			
パ [pa]	ピ [pi]	プ [pu]	ペ [pe]	ポ [po]	パイ [pɪ] [pi] [pɪ]	プス [ps] [pʰi] [pɪ]	ペエ [pɛ] [pɛ̃]	ピヤ [pja]	ピユ [pju]	ピヨ [pjo]	プア [pwa]		
パ [pa]	ピ [pi]	プ [pu]	ペ [pe]	ポ [po]				ピヤ ツピヤ [pja]	ピユ ツピユ [pju]	ピヨ ツピヨ [pjo]	プア ツプア [pwa]		
バ [ba]	ビ [bi]	ブ [bu]	ベ [be]	ボ [bo]	バイ [bɪ] [bi] [bɪ]	ブス [bz] [bʰi] [bɪ]	ベエ [bɛ] [bɛ̃]	ビヤ [bja]	ビユ [bju]	ビヨ [bjo]	ブア [bwa]		
ヴァ [va]	ヴィ [vi]	ヴ [vu]	ヴェ [ve]	ヴォ [vo]				ヴァ [vja]	ヴユ [vju]	ヴヨ [vjo]			
マ [ma]	ミ [mi]	ム [mu]	メ [me]	モ [mo]	マイ [mɪ] [mi] [mɪ]	ムス [mz] [mʰi] [mɪ]	メエ [mɛ] [mɛ̃]	ミヤ [mja]	ミュ [mju]	ミヨ [mjo]	ムア [mwa]		
マ [ma]	ミ [mi]	ム [mu]	メ [me]	モ [mo]				ミヤ ツミヤ [mja]	ミュ ツミュ [mju]	ミヨ ツミヨ [mjo]			
ヤ [ja]		ユ [ju]	イエ [je]	ヨ [jo]									

ʔヤ ツヤ [ʔja]		ʔユ ツユ [ʔju]	ʔイエ ツイエ [ʔje]	ʔヨ ツヨ [ʔjo]									
ラ [ra]	リ [ri]	ル [ru]	レ [re]	ロ [ro]	リイ [ri] [rii][ri]		レエ [rɛ] [rɛ̃]	リヤ [rja]	リュ [rju]	リョ [rjo]	ルア [rwa]		
ラ° [θa]	リ° [θi]	ル° [θu]	レ° [θe]	ロ° [θo]									
ʔラ ツラ [ʔra]	ʔリ ツリ [ʔri]												
ワ [wa] [va]	ウイ [wi]		ウエ [we]	ウオ [wo]									
ʔワ ツワ [ʔwa]	ʔウイ ツウイ [ʔwi]		ʔウエ ツウエ [ʔwe]										

(長音) ー

(促音) ッ

(撥音) 【語頭】 ʔン, ンン ʔn, ʔm, ʔɲ, ʔŋ, ʔN [n-,m-,ɲ-,ŋ-,N] (緩やかな声立て)

ʔン, ツン [ʔn,ʔm,ʔɲ,ʔŋ,ʔN] (声門閉鎖音)

【語中・語末】 ン [-n,-m,-ɲ,-ŋ,-N]

音節主音の子音〔大神島、伊良部島〕

クラ ムル プル ブル  
[kf] [ml] [pl] [bl]

子音単独

ム° フ ヴ リ ル  
[m] [f] [v] [l] [r]

補助記号

無声化				
〔波照間島、石垣島白保〕				
カ。	キ。	ク。	キイ。	サ。シ。ス。タ。テイ。トウ。チ。ツ。チイ。
[ka.]	[ki.]	[ku.]	[kɿ.][ki.]	[sa.] [ʃi.] [su.] [ta.] [ti.] [tu.] [tʃi.] [tsu.] [tsɿ.] [tsi.]
ナ。	ニ。	ニイ。	パ。ピ。	ピイ。マ。ミ。ミイ。ラ。リ。リイ。
[na.]	[ni.]	[nɿ.][ni.]	[pa.] [pi.]	[pɿ.][pi.] [ma.] [mi.] [mɿ.][mi.] [ra.] [ri.] [rɿ.][ri.]
ン。				
[n. m.]				
〔竹富島〕				
ヒ。	フ。			
[çi.]	[φu.]			
鼻母音				
ア <sup>~</sup>	イ <sup>~</sup>	ウ <sup>~</sup>	エ <sup>~</sup>	オ <sup>~</sup>
[ā]	[ī]	[ū]	[ē]	[ō]
鼻音化				
ヒ <sup>~</sup>	ン <sup>~</sup>			
[hī]	[n̄, ɿ]			
広母音〔竹富島〕				
アア	【参考】	ア		
[a]		[ə]		

留意事項

(1) <sup>?</sup>ヤ[<sup>?</sup>ja] <sup>?</sup>ワ[<sup>?</sup>wa] / <sup>?</sup>カ[<sup>?</sup>ka] <sup>?</sup>キ[<sup>?</sup>ki]など

ヤ行、ワ行、「ン」に補助記号「<sup>?</sup>」を左上に付けた「<sup>?</sup>ヤ」などの文字は「声門閉鎖音」を表す記号である。沖縄語、国頭語の語頭では「<sup>?</sup>」の有無により意味の区別があるため、書き分ける必要がある。

これまで『名護市史 本編 10 言語 やんばるの方言』（2006）や『西原町史 第8巻・資料編7 西原の言語』（2010）では「<sup>?</sup>ヤ」「<sup>?</sup>ワ」のほか、撥音と組み合わせた「<sup>?</sup>ン」が使用された。「<sup>?</sup>」は語頭母音の前でも現れ、意味の区別に関与するが、カナ表記では便宜的に「ア」「イ」「ウ」等のように「<sup>?</sup>」を付けない表記がなされている。なお[<sup>?</sup>a][<sup>?</sup>i][<sup>?</sup>u]等の母音は語中においては[a][i][u]等と同じ音色となる。

「<sup>?</sup>カ」「<sup>?</sup>キ」などについている「<sup>?</sup>」も喉頭化した音を表す。音声記号では[ʔ]（アポストロフィー）や[ʔ̥]（グロッタルストップを小書きにする）を補助記号として使用することから、仮名文字に「<sup>?</sup>」を組み合わせ、この音を表す方法がある。『名護市史 本編 10 言語 やんばるの方言』（2006）などで使用されている。この音を音声表記で記す場合[t<sup>?</sup>a]のように右上に書かれることもあり、国頭語、与那国語で主に使用されている。

(2) ツヤ[<sup>?</sup>ja] ツワ[<sup>?</sup>wa] / ツカ[<sup>?</sup>ka] ツキ[<sup>?</sup>ki]など

ヤ行、ワ行、撥音「ン」の前に「ツ」を付した表記は、『図説 琉球語辞典』（1981）、『沖縄語辞典—那覇方言を中心に—』（2006）などの辞書のほか、『沖縄語の入門—たのしいウチナーグチ—（CD付改訂版）』（2006）などの教科書でも使用される表記である。

ただし、通常の促音で始まる、「ツチュ」（人）、「ツクワ」（子）などの単語が「沖縄語」にあるため、通常の促音を付すのではなく、左上に「ツ」を付した『図説 琉球語辞典』（1981）、『しまくとぅば読本（2015）』、『高校生のための郷土のことば—沖縄県（琉球）の方言—』（2014）などに採用されている。



(3) 'ア[a] 'イ[i]など

ア行に補助記号「'」を左上に付けた「'ア」は喉に力を入れずに発音する場合（以後「緩やかな声立て」の表記法の一つである。「緩やかな声立て」とは「声門閉鎖音」や「喉頭化音」を伴わずに発音される音を表す用語である。国際音声記号ではこの「緩やかな声立て」を表す記号はなく、「声門閉鎖音」の有無により意味を区別する言語の音韻的な解釈として「緩やかな声立て」が使用されることがある。

これまで『名護市史 本編 10 言語 やんばるの方言』（2006）や『西原町史 第8巻・資料編7 西原の言語』（2010）では「緩やかな声立て」を「'」と組み合わせた片仮名で記し、ア行の「'ア」「'イ」「'ウ」「'エ」「'オ」の他、撥音「'ン」でも使用された。

(4) ピイ[pɪ] [pi] [pī] ビイ[bɪ] [bi] [bī]など

八重山地域に見られるいわゆる「舌尖母音」、「中舌母音」の表記は、ピイトウ（人）、ウベエー（帯）のようにイ段の仮名に小添字「ィ」、エ段の仮名に小添字「ェ」という表記を用いている。この表記は実際の音声に基づきイメージしやすいため加えたものである。『八重山語彙』（1930）をはじめ古くから採用されている表記である。

(5) プス[pʰs̺i] [pɪ][ps] ブズ[bʰz̺i] [bi][bz]など

宮古地域にみられるいわゆる「舌尖母音」、「中舌母音」、「音節主音的子音」の表記は、ウ段の仮名に小添字「ス」、「ズ」を添えて表記する。「ス」、「ズ」を添えるのは[s]や[z]を伴う特徴のためである。

(6) ラ°[θa]、レ°[θe]など

久高島の子音には、[θ]や[r̺]等の音声表記で書き表される特殊な音色がある。本来、サ行で表記したいところだが、すでに他地域の音声を表すのに使用されている。この子音は、ラ行音のバリエーションとして捉える意見があることも考慮し、「ラ°」「レ°」等のように表記する。なおこの表記は『新編 沖縄の文学』（2003）でも採用されている表記である。

(7) ム° [m]

宮古語の[m]では後続する子音が[mta]（土）の[m]のように子音単独で現れ後続する子音に限定されずに常に[m]で発音される。この音を書き分けるため通常の[mu]の音は「ム」で書き、子音単独の[m]は「°」を補助記号として付して書き分けている。

(8) ヅ[v] リ[l]など（子音単独）

宮古語では平良のクヅ[kuv]（昆布）の[v]や多良間のトゥリ[tul]（鳥）の[l]のように子音単独で発音される音があり、これらの音は小書き文字で表記する。また八重山語黒島にはトゥル[tur]（鳥）があり、リ[l]とル[r]を書き分けている。

## 参考第 2 表

まえがき

参考第 2 表は地元で広く使用されている表記や先行研究で示されている表記を中心にまとめて示したものである。それぞれのカナ表記については、地域や出典ごとに使用法が異なることもあるので、「留意事項」を参照されたい。

①	クア [kwa]	グア [gwa]					
②	ツ [ts] [tsi] [tsɿ] [tsi]	ス [s] [si] [sɿ] [si]	ズ [dz] [dzi] [dzɿ] [dzi]	ス° [z] [zi] [zɿ] [zi]			
③	スウ [su]	ズウ [dzu]	ス°ウ [zu]	ツウ [tsu]	フウ [fu]	ヴウ [vu]	
④	フ [f]	ヴ [v]	リ° [l]	ル° [r]			
⑤	スワ [swa]	ズワ [dzwa]	?トワ ツトワ [t'wa]	ツワ [tswa]	ヌワ [nwa]	フワ [Φa]	など
⑥	イイ [ji] [ <sup>(i)</sup> i]	ウウ [wu] [ <sup>(w)</sup> u]					
⑦	イウ [i]	キウ [ki]	ギウ [gi]	シウ [si]	ジウ [dzi]	チウ [tsi]	など
	ケウ [kē]	ゲウ [gē]	セウ [sē]	ゼウ [dzē]	ツエウ [tsē]	など	
⑧	ム [m]						
⑨	ホウ [hu]						
⑩	ファ [fa]	フィ [fi]	フ [fu]	フェ [fe]	フォ [fo]		
	ファ [fja]	フユ [fju]	フヨ [fjo]				

⑪	サ° [θa]	スイ° [θi]	ス° [θu]	セ° [θe]	ソ° [θo]		
---	------------	-------------	------------	------------	------------	--	--

## 留意事項

### ①クァ[kwa] グァ[gwa]

参考第1表では kwa、gwa は、しまくとぅばの文語の伝統的表記では、「くわ」「くゎ」「くは」「ぐわ」「ぐゎ」「ぐは」と書かれるが、用例で最も多い表記に合わせて「クワ」「グワ」とした。しかし参考第2表では、ア段以外の小書き文字は「クィ、クェ、クォ」と表記されることから体系的な観点から小書き「ァ」を添えた「クァ」「グァ」の表記を参考第2表に採用した。『西原町史 第8巻・資料編7 西原の言語』(2010)などで使用されている。

例. クワッチー (御馳走)           「クァッチー」は参考第2表の表記とする。  
 マヤーグワー (小猫)           「マヤーグァー」は参考第2表の表記とする。

### ②ツ[ts] [ts i] [tsɿ] [tsi] ス[s] [s i] [sɿ] [si]など (いわゆる「宮古仮名」)

宮古語のカナ表記、いわゆる「宮古仮名」として、広く使われるものとして、「ツナ」(綱)の「ツ」、「スマ」(島)の「ス」、「トゥズ」(妻)の「ズ」、「トゥス°」(鳥)の「ス°」といった表記がある。例えば、「スマ」(島)の「ス」は、研究者の考え方の違いによって、[s] [s i] [sɿ] [si]などと音声表記が異なるが、標準語の唇を丸めない「ス」[su]の発音に近いことから、「宮古仮名」では広く「ス」という仮名で近似的に示されてきたという経緯がある。

「ス」のほかに、「ツ」も[ts] [ts i] [tsɿ] [tsi]、「ズ」も[dz] [dz i] [dzɿ] [dzi]、「ス°」も[z] [z i] [zɿ] [zi]を表す「宮古仮名」、すなわち、宮古語の「地域表記」として、ある程度、親しまれてきているため、参考第2表に加えることとした。「ツ」「ス」「ズ」は、標準日本語の近似音としての仮名表記、「ス°」は、標準語には近似的なものがない音を地元なりに書き表した仮名表記である。

なお、「ツ」「ス」「ズ」が、国頭語・沖縄語のカナ表記として使用される場合は、西日本方言に見られる唇を丸める[tsu][su][dzu]を表す(こちらを参考第1表としている)ことになるので、地域の異なりによる各「地域表記」の違いは留意すべきところである。宮古語で唇を丸める母音[u]をカナ表記する場合の「地域表記」(宮古仮名)としては、「ツゥ」「スゥ」「ズゥ」のように小字「ゥ」を添えた表記が宮古地域の中で広く知られているため、これら表記も参考第2表に加えている(→④)。

### ③スゥ[su]、ズゥ[dzu]など

宮古語では唇を丸める[tsu][su][dzu]などのようなウ段音の音声にはそれぞれ「ツゥ」「スゥ」「ズゥ」のように小添え字の「ゥ」を添えた表記が慣例的に広く用いていて、地域表ではそれを採用しているが参考第2表に入れている。これら[tsu][su][dzu]の音は、宮古以外の地域(国頭、沖縄、八重山、与那国)では現代日本語の表記と同様に「ツ」「ス」「ズ」と表されるので留意する必要がある。

### ④フ[f] ヴ[v]など(いわゆる子音のみの「宮古仮名」)

宮古語では、母音が添えられず、子音のみの発音が観察されることがある。これら子音のみの発音は、参考第1表では、小書きのカタカナで示すことにしたが、いわゆる地域で通用する「宮古仮名」では、仮名文字に「<sup>°</sup>」(半濁点)を付ける表記法が、広く行われている。ゆえに、「<sup>°</sup>」の付与で子音のみを表す、ム<sup>°</sup> [m]、リ<sup>°</sup>、ル<sup>°</sup> [l]のような表記も、参考第2表に加えている。

その他、フ[f]、ヴ[v]の仮名も、小文字ではないが、大文字のままで子音のみの発音に使用されこともあるので、参考第2表に加えている。

『宮古伊良部方言辞典』(2013)、『たらまふつ辞典』(2017)で[i]を「リ°」で表記しているので参考第2表に加えている。また、宮古語の舌尖母音をウ段で表記するために「ル°」で表記する立場もある。

#### ⑤スワ[swa] ズワ[dzwa]など

体系的な観点から参考第1表では、「スア、ズア、<sup>?</sup>トア、ツア・・・」を採用したが、与那国語では[kwi]、[kwe]が無いこともあり、『どうなんむぬい辞典』(2019)、『与那国ことば辞典』(1998)などですでに使用されている統一的に小書きの「ワ」が添えられた表記である「スワ、ズワ、<sup>?</sup>トワ、ツワ・・・」を参考第2表に入れている。

例. フワン (降った) ドワイ (お祝い) スワーヌ (苦い)

#### ⑥イイ[ji] [<sup>ʷ</sup>i] ウウ[wu] [<sup>w</sup>u]

「イ」に補助的な小書きの「ィ」を加えたのが「イィ」である。この発音は[<sup>ʷ</sup>i]を表す場合も[ji]を表す場合もあり、話者や地域により[j]の発音が強い場合もある。「イィ」はこの発音が「ー」で書き表される長音の半分長さの「半長音」まではいかないものの、通常の「イ」よりはほんの少し長めに発音される特徴からか、小書きの「ィ」を添えた書き方になっている。

「ウ」に補助的な小書きの「ゥ」を添えたのが「ウウ」である。この発音は人によって唇音化の弱まった[<sup>w</sup>u]や唇音化の強い[wu]の発音の人もある。『沖縄語辞典—那覇方言を中心に—』(2006)『沖縄の方言 調べてみよう暮らしのことば』(2004)などでも採用されているため、参考第2表に入れている。

#### ⑦イウ[i]、キウ[kɪ]、ケウ[kɛ]、ゲウ[gɛ]など

八重山語については、[a]、[i]、[u]、[e]、[o] の五母音に加えて、「中舌母音」の[i]があるとする立場がある。さらに、「中舌半広母音」の[ɛ]を認める立場もあり、これに対するカナ表記も参考第2表に入れている。

例えば、『石垣方言辞典』(2003)では、[i] はイ段の仮名文字に小書きの「ゥ」を添えた文字、[ɛ] はエ段の仮名文字に小書きの「ゥ」を添えた文字によって統一的な表記がされており(小文字の「ゥ」をウムラウト記号と見なす)、これら表記も参考第2表に加えている。

『石垣方言辞典』(2003)で「ツェウ」など、小書きの文字が2つ重なっているものも、参考第2表に入れている。

八重山語石垣四箇字 参考第2表による表記例

サキウ[saki] (先)                      カビウ[kabi] (紙)                      シュムチウ[jumutsi] (書物)

サケウー[sakē:] (先は)              カベウー[kabē:] (紙は)              シュムツェウー[jumutsē:] (書物は)

宮古語(多良間を含む)についても、[a]、[i]、[u]、[e]、[o] の五母音に加えて、「中舌母音[i]」があるとする立場がある。この立場で書かれた『琉球宮古諸島方言基礎語彙の総合的研究』(1983)などでは、『石垣方言辞典』(2003)と同様に、[i] はイ段に小書きの「ゥ」を組み合わせて表記されており、これらも宮古語を表記した例として参考第2表に入れている。

宮古語 参考第2表による表記例

平良      サキウ[sak̚i] (先)              カビウ[kabi] (紙)              シュムチウ[jumutsi] (書物)

多良間      シャキウ[ʃak̚i] (先)              カビウ[kabi] (紙)              シュムチウ[jumutsi] (書物)

#### ⑧ム[m] (子音単独)

宮古語では、[im] (海) と[in] (犬) のように区別される鼻音があり、後続する子音が[mta] (土) のように後続する子音に限定されずに常に[m]で発音される。この音を書き分けるため『琉球宮古諸島方言基礎語彙の総合的研究』(1983)で[m]は小文字の「ム」で表記しているため参考第2表に加えている。

⑨ホウ [hu]

宮古語のうち池間島、宮古島市西原、伊良部島佐良浜などでは[fu]と[hu]の区別があり、両者を書き分ける必要があるため、前者を「フウ」、後者を「ホウ」と表記する。例えば『南琉球宮古語池間方言辞典』では「運」を[fu:]、「帆」を[hu:]のように区別している。なお「フ」は子音単独を表す記号である（→⑧）。

⑩ファ [fa]、ファ [fja]など

宮古語や八重山語の一部の地域の「ファ」「フィ」「フ」「フェ」「フォ」等の発音は、[ɸ]（上下の唇を近づける発音）ではなく、[f]（下唇と上歯を近づける発音）である。これらの地域では、[ɸ]と[f]を区別する必要がないため、[fa] [fi] [fu] [fe] [fo] 等をあえて特殊なカナ表記とはしないで、より親近性のある「ファ」行で表記している。例えば『宮古伊良部方言辞典』（2013）ではフダ[fuda]（札）と「フ」で表記され、『琉球宮古諸島方言基礎語彙の総合的研究』（1983）でもマッフア[maffa]（枕）のように「ファ」と表記されている。

⑪サ° [θa]、スイ° [θi]など

久高島の子音には、[θ]や[r]等の音声表記で書き表される特殊な音色がある。これは上あごに付けた舌の両側面から息を出して発せられる音で、[s]に近い音色となる。これらの音をカナで表記するために、サ行の右肩に「°」を付し、サ° ビ[θabi]（旅）ジ° ラー[θira:]（太陽）のように表記する。

参考文献

- 宮良當壯(1930)『八重山語彙』東洋文庫  
国立国語研究所編（1963）『沖縄語辞典』財務省印刷局  
中本正智（1981）『図説 琉球語辞典』力富書房金鶏社  
平山輝男編著(1983)『琉球宮古諸島方言基礎語彙の総合的研究』桜楓社  
井上史雄・吉岡泰夫・内間直仁監修、かりまたしげひさ・仲原穰・中本謙・西岡敏著（2004）『沖縄の方言 調べてみよう暮らしのことば』ゆまに書房  
波照間永吉監修（2003）『新編沖縄の文学』沖縄時事出版  
宮城信勇（2003）『石垣方言辞典』沖縄タイムス社  
内間直仁・野原三義（2006）『沖縄語辞典—那覇方言を中心に—』研究社  
名護市史編さん委員会（2006）『名護市史 本編 10 言語 やんばるの方言』名護市  
西岡敏・仲原穰（2006）『沖縄語の入門—たのしいウチナーグチ—（CD 付改訂版）』白水社  
生塩睦子（2009）『新版沖縄伊江島方言辞典』伊江村教育委員会  
西原町史編集委員会編（2010）『西原町史 第8巻・資料編7 西原の言語』西原町教育委員会  
前新透著、波照間永吉・高嶺方祐・入里照男編著(2011)『竹富方言辞典』南山舎  
富濱定吉（2013）『宮古伊良部方言辞典』沖縄タイムス社  
野原三義・内間直仁・中本謙・田名裕治編（2014）『高校生のための郷土のことば~沖縄県（琉球）の方言~』沖縄県教育委員会  
野原三義・加治工真市・西岡敏・中本謙・仲原穰監修、「しまくとぅば読本」制作委員会編集（2015）『しまくとぅば読本』（沖縄県観光スポーツ部文化振興課）  
小川晋史編（2015）『琉球のことばの書き方—琉球諸語統一的表記法』くろしお出版  
宮良信詳(2021)『うちなーぐち活用辞典』国立国語研究所  
仲間博之・田窪行則・岩崎勝一・五十嵐陽介・中川奈津子『南琉球宮古語 池間方言辞典』（2022）国立国語研究所  
狩俣繁久（2022）「琉球諸語の仮名文字正書法の制定にむけて」『琉球アジア文化論集』第8号

## IV 參考資料

## 用語集

### ユネスコによる5つの言語

ユネスコ（国連教育科学文化機関）が2009（平成21）年2月19日に発表した言語  
“Atlas of the World’s Languages in Danger” 「世界危機言語地図帳」（第3版）

国頭語：沖縄本島北部及び周辺諸島、与論島、沖永良部島、喜界島の大部分

沖縄語：沖縄本島中部及び南部、周辺諸島

宮古語：宮古島、及び周辺諸島

八重山語：石垣島、西表島など八重山諸島

与那国語：与那国島

※ただし、本表記における国頭語については与論島及び沖永良部島、喜界島は除きます。

※ユネスコでは「言語」と「方言」を区別せず、全て「言語」で統一しています。

### 声門閉鎖音

声帯は、気管の上部にある音声の生成を司る器官で、左右2対の筋肉の襞です。2対の  
声帯の間の呼気の通路を声門といいます。発音する際に息をせき止めて生み出す音を閉  
鎖音（破裂音）といいます。2対の声帯を軽く閉じて肺からの呼気で振動させて声を出し  
ます。その声門を閉じた後、急に声門を開いて作られる閉鎖音を「声門閉鎖音」または「喉  
頭破裂音」といいます。国際音声記号では[ʔ]で表します。

### 中舌狭母音

母音[i]は舌の最も高く盛り上がった部分が最も前寄りで、なおかつ舌面と歯茎の隙間  
が狭いので「前舌狭母音」といいます。母音[u]は舌の最も高く盛り上がった部分が最も  
後寄りで、なおかつ奥舌と軟口蓋の間の隙間が狭いので「後舌狭母音」あるいは「奥舌狭  
母音」といいます。舌の最高点が[i]と[u]の中間に位置する母音を「中舌狭母音」といい、  
国際音声記号では[i̠]で表記します。琉球諸語の奄美語に見られます。なお宮古語や八重  
山語にも中舌母音があるという見方もあります。

### 舌尖母音

「舌尖母音」は、歯茎摩擦音[s]、[z]と同じ舌の形、もしくは、歯茎と舌端の間の隙間  
が[s]、[z]よりやや広めにして発せられる母音です。舌尖母音 apical vowel を表す国際音  
声記号がなく、スウェーデン語方言、中国語方言の舌尖母音を表す[ɿ]を用いて表記しま  
す。宮古語大神島、多良間島、石垣島等の八重山語に舌尖母音があり、呼気が強いとき摩  
擦性の音を伴って発せられます。なおこの舌尖母音を中舌母音とする見方もあります。

<p><b>喉頭化、喉頭化音</b></p>
<p>発音する際に上唇と下唇、舌と歯茎、舌と上あごの後方（軟口蓋）等で肺から送られた呼気をせき止め、閉鎖や狭めで生み出される子音[p]、[w]、[m]、[t]、[n]、[j]、[k]に対して、それらの音を作り出す場所（調音点）と声帯とその周辺（喉頭）の二カ所で閉鎖を作って発音される子音を「喉頭化音」といい、非喉頭化音[p]、[w]、[m]、[t]、[n]、[j]、[k]が喉頭化音に変化することを「喉頭音化」といいます。琉球諸語には[ʔp]、[ʔw]、[ʔm]、[ʔt]、[ʔn]、[ʔr]、[ʔj]、[ʔk]等の喉頭化音があります。これらの「喉頭化音」は喉頭を緊張させて声門を完全にもしくはごく一部を開いた状態で両唇等の調音点での解放と同時に声門を解放して生み出されます。喉頭化音を含む音節をカナで示すと喉頭破裂音（声門閉鎖音）[ʔ]を補助記号として使用してʔパ[ʔpa]、ʔワ[ʔwa]、ʔマ[ʔma]、あるいは、上付きの「ツ」をつけてツパ[ʔpa]、ツワ[ʔwa]、ツマ[ʔma]のように表記します。</p>
<p><b>無声音、無声化</b></p>
<p>無声音とは、標準語の子音[p][t][k]などのように声帯の振動を伴わずに発せられる音声です。これに対して有声音は、標準語の[b][d][g]などの子音や母音 a、i、u、e、o は声帯の振動が伴って発せられる音声です。</p> <p>無声化とは、有声音 b、d、g が無声音 p、t、k に変化することをいいます。また無声化した母音 a、i、u、e、o を表すとき、母音字の下に無声化を表す補助記号をつけて a<sub>0</sub>、i<sub>0</sub>、u<sub>0</sub>、e<sub>0</sub>、o<sub>0</sub> のように書き表します。</p>
<p><b>緩やかな声立て</b></p>
<p>沖縄語には通常の語頭の母音音節のア a、イ i、ウ u、エ e、オ o、撥音ン N とは異なり、緩やかに声を立ち上げて発音する'ア'a、'イ'i、'ウ'u、'エ'e、'オ'o、撥音'ン'N がありますが、国際音声記号にはこの「緩やかな声立て gradual beginning」を表す記号はありません。</p> <p>しかし、沖縄語では[in]（犬）と[i<sub>0</sub>n],[jin]（緑）の区別があり、両者を書き分ける必要があることから、琉球独自の音声記号として「緩やかな声立て」を表す補助記号「'」（アポストロフィー）を母音字の左肩に付けて、[a]、[i]、[u]、[e]、[o]と表記する方法も使われています。これをカナで表記する際は'ア,アア、'イ,イイ、'ウ,ウウ、'エ,エエ、'オ,オオと表記します。</p>
<p><b>鼻音化、鼻母音</b></p>
<p>通常、母音を発するときは、鼻から呼気が抜けないように口蓋帆（口や鼻へ気流を切替える器官）を持ち上げて鼻腔（鼻の空洞）への通路をふさぎ、口腔（口の空洞）のみで共鳴させます。</p> <p>しかし、母音を発するとき口蓋帆を下げて鼻腔でも共鳴させて発生することがあります。このように鼻腔でも共鳴させながら発音することを鼻音化といい、鼻音化した母音を鼻母音といいます。鼻母音は ä、ü、ö、ï のように母音字の上に「~」を付けて表します。鼻母音の ä、ü、ö などは八重山語の竹富島にあります。</p>



<b>音節</b>
一度に発音することのできる一まとまりの聞こえを持つ最小の単位を音節といいます。日本語および琉球諸語の音節は、典型的には母音単独（ア a、ウ u）で、あるいは、母音の前後に1個の子音を伴って形成されます。（マ ma、ク ku、アッ aQ、マッ maQ）音節文字と呼ばれる仮名文字は1文字1音節です。
<b>音節主音の子音</b>
母音は前後に子音を伴って、すなわち音節主音として音節を形成します。子音は、通常、音節副音として母音の前後に配置されますが、前後に子音を伴って母音のように音節主音として音節を形成する子音を音節主音の子音といいます。宮古語の[pstu]（人）の[s]、[bz:]（亥）の[z:]、[kf:]（作る）の[f]、[ml:na]（ニラ）の[l:]が音節主音の子音として音節を形成します。 なお、[ps]の[s]を母音の無声化と捉える立場もあります。
<b>前舌半広母音</b>
母音は、音声器官（舌や歯や唇など）による閉鎖や狭めのない音です。国際音声記号では舌の最も高く盛り上がった部分が前寄りの母音を前舌母音といいます。前舌母音は狭母音[i]、半狭母音[e]、半広母音[ɛ]、広母音[a]の4段階に分かれます。 これらは口の開き方により区別されます。標準語の「エ e」は半狭母音と半広母音の間よりも半狭母音寄りの位置で発音されます。（国際音声記号の基本母音の位置との比較） 八重山語波照間、白保には標準語の[e]と同じ半狭母音[e]の他に前舌半広母音[ɛ]があります。
<b>広母音</b>
標準語の「ア[a]」は[e]よりも口の開きが広い広母音です。[ɶ]は[a]よりも少し顎を上げて、やや口の開きが狭く発音されます。八重山語竹富で[pəi]（灰）のようにあらわれ、「あいまい母音」「シュワー」とも称されます。

## しまくとうば正書法検討委員会設置要綱

平成30年11月5日制定  
令和3年7月29日改正

### (目的)

第1条 しまくとうば正書法検討委員会（以下「検討委員会」という。）は、しまくとうばの普及継承に効果的な正書法について、必要な事項を検討することを目的とする。

### (組織)

第2条 委員は、しまくとうばについて専門的知識を有する者及びしまくとうばの普及継承に携わる者で構成する。

2 委員は、別表のとおりとし、文化観光スポーツ部長（以下「部長」という。）が委嘱する。

3 検討委員会には、委員長および副委員長を置く。

4 委員長は、会務を総理し、検討委員会を代表する。

5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が不在の時、または事故のあるときはその職務を代理する。

6 委員は、やむを得ない場合には、委員長の承認を得て他の者に職務を代理させることができる。

7 委員の任期は、令和4年3月31日までとする。

8 委員長が必要と認める場合はその他の関係者を含めることができる。

9 検討委員会の下部組織として、ワーキンググループを設置することができる。

### (会議)

第3条 検討委員会の会議は、部長が招集し、委員長が議長となる。

2 検討委員会は、必要があると認められたときは、委員以外の関係者の出席を求め、意見または説明を聞くことができる。

### (事務局)

第4条 検討委員会の事務は、県文化観光スポーツ部文化振興課において処理する。

### (補足)

第5条 この要項に定めるものの他、検討委員会の運営について必要な事項は、委員長が検討委員会に諮って定める。

### 附 則

この要綱は、平成30年11月5日から施行する。

この要綱は、令和3年7月29日から施行する。

しまくとぅば正書法検討委員会 委員名簿

令和3年7月29日から令和4年3月31日まで

団体	氏名	職名	備考
学識経験者	1 かりまたしげひさ 狩俣 繁久	琉球大学 名誉教授 琉球大学 島嶼地域科学研究所 客員研究員	
	2 みやら しんしょう 宮良 信詳	琉球大学 名誉教授	令和4年3月29日 辞任
	3 なかはらじょう 仲原 穰	琉球大学・名桜大学・沖縄国際大学・ 沖縄大学・県立芸術大学・沖縄キリスト教短期大学 非常勤講師	ワーキング グループ
	4 なかもとけん 中本 謙	琉球大学 教授	ワーキング グループ
	5 にしおかさとし 西岡 敏	沖縄国際大学 教授	ワーキング グループ
普及関係者	6 はてるま えいきち 波照間 永吉	しまくとぅば普及センター長	委員長
	7 あげな たつや 安慶名 達也	特定非営利活動法人 沖縄ハンズオン NPO 理事長	
教育関係	8 うえず あさお 上江洲 朝男	琉球大学教職センター 教授	
県	9 まつどう のりあき 松堂 徳明	沖縄県文化観光スポーツ部 文化振興課長	副委員長